



渋谷区

面積15.11km ²
世帯数139,627世帯
人口228,906人 (うち外国人).....9,706人
予算1,063億円
職員数2,037人



忠犬ハチ公像

飼い主の上野博士が亡くなった後も、10年間渋谷駅前で主人の帰りを待ち続けた秋田犬ハチ公の銅像です。



渋谷おとなりサンデー

パリの隣り祭りをヒントに、大小さまざまな交流を一堂に行い、普段話すことの少ない近隣の人もっと顔見知りになって楽しく交流を深める日にしようという取組みです。



渋谷区くみんの広場

ふるさと渋谷フェスティバル「平和・国際都市 渋谷 ふるさと渋谷」の創造と発信をメインテーマに、毎年11月初旬に代々木公園B地区を中心に開催しています。

歴史・見所・名所

「渋谷」の地名の由来は、その地形からきているという説や豪族の氏によるという説など諸説がありますが、確たる文献がなく定かではありません。

渋谷区は昭和7(1932)年10月1日に渋谷町、千駄ヶ谷町、代々幡町の3町が合併し、大東京35区の一環として誕生しました。その後、交通網の発達や大学立地などとあいまって、戦後から高度経済成長期にかけて人口が増加し、「文教住宅都市」として市街地が形成されました。さらに、昭和39(1964)年の東京オリンピックを契機として都市基盤の整備が進出し、業務・サービス機能の集積が進み、昼間人口は飛躍的に増大し、「副都心を有するまち」としての性格を強めました。現在も、渋谷駅周辺の大再開発が進行中であり、渋谷区は日々進化発展しています。

渋谷駅前広場にはその実話とともに有名な忠犬ハチ公像が渋谷の移り変わりを見守っており、渋谷駅前スクランブル交差点はリオデジャネイロオリンピックの閉会式映像でも登場するなど、どちらも日本を代表する世界的に有名なスポットになっています。

概要

渋谷区は23区の西南に位置しています。中心部には明治神宮・代々木公園という大きな緑地があり、全体の約1割を占めています。

人口(各年とも1月1日現在の住民記録人口)は昭和38(1963)年の26万8千人をピークに漸減し、バブル景気後の平成9(1997)年に18万3千人となりましたが、都心回帰により増加傾向に転じ、令和4(2022)年7月現在22万9,576人となっています。

現在の渋谷区は単独世帯が全世帯の6割を超えており、都市の利便性を重視する勤労者や学生の多いまちとなっています。副都心地区を中心にファッションやIT関連などの産業、高次な文化機能をはじめとする都市機能が集積し、東京を代表する活力を備えています。また、良質な住宅地としての都市イメージも高く、都心居住の場及び文化創造の場として、多様な可能性を有するまちです。

渋谷駅周辺地域は平成17(2005)年12月に都市再生緊急整備地域の指定を受け、さまざまな整備計画が進んでいます。平成20(2008)年6月に地下鉄副都心線が開通し、その後、渋谷ヒカリエや渋谷スクランブルスクエアなど多くの商業施設が開業しました。渋谷区は、百年先の渋谷の発展を見据え、企業、鉄道事業者、地域、国、東京都と調整を図りながらさらなるまちづくりを進めています。

主要課題

渋谷区は若者に寛容な街として、時代を先取る情報やファッション

に満ちた文化・国際交流の都市として発展してきました。一方で、急激な少子高齢化の進展、単独世帯の増加、価値観やライフスタイルの多様化などにより、地域における人間関係の希薄化や地域の賑わい、活力の低下など地域社会における新たな課題が生じてきています。そこで、20年後を展望し課題の解決に向けこれから区が進んでいく方向を定めるため、平成28(2016)年10月に渋谷区基本構想を策定し、その中で区の目指す未来像を「ちがいを ちからに 変える街。渋谷区」と掲げました。今後、未来像の実現に向けたさまざまな取組みを進めていきます。

(1) 区民が誇れる「成熟した国際都市」

スクランブル交差点に代表される渋谷駅周辺の賑わいや、渋谷が生み出す文化やムーブメントは常に強烈なインパクトを与え続けてきました。渋谷区は国際都市として「ダイバーシティ&インクルージョン」の考え方を大切にし、人種、性別、年齢、障害の有無を問わずこの街に暮らし、働き、訪れるすべての人々にとって、誇りを感じられる魅力あふれる街であり続けることが必要です。

(2) つながり、支え合う共生の街

この街に暮らすすべての人々が、住み慣れた地域でいつまでも自分らしく生きていくためには、子どもから大人まであらゆる世代が支え合い、助け合える地域社会の形成が必要です。こうした多世代が交流する共生社会の実現のためには、人と人とのつながりや共助の心を育むとともに、家庭や地域、学校等の地域コミュニティを構成するあらゆる立場の関係者間の連携を深め、ときには民間企業やNPOなどとも協働してまちづくりを進めていくことが必要です。

(3) 未来につながる持続可能な都市

誰もが安心して住み続けられるために、区民の生活環境の持続的な維持・向上に努めるとともに、日々の暮らしが自然に健康とつながるようなまちづくりが大切です。また、経済の持続可能な発展のためには、地域の企業や商店等の発展とともに、新たなビジネスを立ち上げやすい環境の整備も重要です。そして、この街で子どもを産みたい、育てたいと思えるような安心と信頼を築くことが、未来につながる持続可能な社会の実現には不可欠です。

(4) 他自治体との連携

平成29(2017)年8月31日に鹿児島市と観光・文化交流協定を、令和4(2022)年5月7日に秋田県大館市と交流促進協定を締結しました。観光、産業、文化等を通じて、双方の交流を深めていきます。

将来展望

区民一人ひとりのあらゆる個性(ちがいを)を尊重し、誰もがその能力(ちから)を最大限発揮できることにより、すべての区民が真のしあわせを実感できる暮らしの実現につなげていきます。そして、住む人、働く人、学ぶ人、活動する人など、渋谷区にかかわるあらゆる人々の多様なちからを原動力とし、それぞれの人生を謳歌できるまちづくりを進めていきます。

一人ひとりの人生のドラマが街をいっそう活性化させていくとともに、その魅力を世界に向けて発信し続けていくことで、区民が誇れる世界を惹きつける魅力的な都市「ちがいを ちからに 変える街。渋谷区」の実現を目指します。



渋谷駅前スクランブル交差点
渋谷駅は、JR・東急・京王・地下鉄各線が乗り入れ、1日当たり約300万人の乗降客でにぎわう渋谷区の表玄関です。



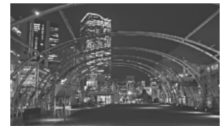
旧朝倉家住宅

東京中心部に残り、数少ない大正期の和風住宅として貴重であり、平成16(2004)年に国の重要文化財に指定されました。一般公開しています。



渋谷区文化総合センター大和田

最上階のプラネタリウムが特徴的な建物で、文化、教育、健康、福祉など幅広い分野における区民活動の拠点です。



渋谷区立宮下公園

明治通りに沿って南北に延びる敷地に、商業施設やホテルと一体の複合施設「MIYASHITA PARK」として令和2(2020)年にリニューアルオープンしました。